

いよいよ令和3年度が始まりました。

昨日は、中高の合同入学式が行われ、中学生105名、高校生145名が、新たに仲間に加わりました。

さて、今日の始業式はこれまでと違って 있습니다。どこが違うかわかりますか？ 昨年度行われた、各学期の始業式や終業式は、すべて放送でした。

今回は、今、式辞を対面で聞いている高校生とオンラインでリアルタイムで視聴している中学生がいます。中学生、見えていますか、聞こえていますか？

教室でオンラインで聞いていた中学生は、後で感想を聞かせてください。

先ほど行われた離任式では、対面やリアルタイムのオンラインだと、離任された先生方の生の声、表情、ちょっとした動作、そういった全ての情報によって、初めて、生身の人間としての感情や思いまで、感じることはできないのではないかと思います。

今回の試みは、一つのチャレンジだと思います。先生方は、失敗を恐れずチャレンジしてくれました。

本校の生徒そして先生方の素晴らしいところは、この1年間のコロナ禍の中、いろいろなことにチャレンジしたことです。

まず、生徒のチャレンジとして思い浮かぶのは、自分を表現できる様々なコンテストを自分で探し出して参加したり、課題研究で自分たちのアイデアを提言して実現していました。

記憶に新しいところでは、例えば、SDG z とディベートをコラボした研究をしたチーム（兵藤さん、小林さん、新井君、

江部君) や、地学オリンピックに挑戦した店網君、クリケットカフェに特別メニューを提供した藤倉さんと福地さん、などがすぐに思い浮かびます。

また、研究の面では、クビアカツヤカミキリの研究を行った山田さん、海原君、長島君、五十嵐さんのチーム、そして、松葉君のボルボックスの研究もチャレンジングでした。SGH クラブ研究班のマレーシアの高校生との協働研究も見事にやり遂げました。ディベート班やボート部のチャレンジも忘れてはいけませんね。

一方、学年や学校全体のチャレンジもたくさんありました。学年では、中1の藍プロジェクト、中2の立志式特別講演会、中3の通学型イングリッシュキャンプ、高校では、独自のパフォーマンス大会や体育大会など、生徒によって企画運営されました。そして、チャレンジの極みは、コロナ対策を施して実施した旭城祭に尽きるのではないかと思います。

こうした数々のチャレンジが、生徒も先生方も、至る所で、当たり前のように行われている学校は、私の知る限り、少なくとも県内には他にはありません。全国でも誇れる学校だと思います。これは、佐野高校・同附属中の最も素晴らしいところだと思います。

さて、新年度の始業式にあたって、皆さんに伝えたいことは、こういうことです。今後、コロナの影響で、教育活動に様々な制限が加わってくる可能性はあるかもしれませんが、しかし、その中でも、一人一人が、あるいは学年が、そして学校がチャレンジできることは必ずある、ということです。

皆さんには、この1年間、どんなチャレンジをしたいか、その結果、どうなりたいかを、それぞれが考えて欲しいと思いま

す。その実現のために、学校ができることがあれば、惜しみなく協力するつもりです。

自分はこんなチャレンジを考えている、そんな生徒は大歓迎です。チャレンジの大きい、小さいは関係ありません。差し支えなかったら、ぜひ、そのチャレンジを聞かせてください。そのためにも、校長室のドアはいつも開けておきます。

皆さん一人一人が成長することによって、学校はどんどん変わっていきます。私は、生徒や先生方とともに、この学校を、もっともっと、皆さんにとって、幸せな学校にしていきたいと思っています。

皆さんにとっても、佐高や佐附中が誇れる学校となることを期待して、1学期始業式の式辞とします。